



聞こえづらさを
感じる人への窓口支援
古越 孝子 議員



円滑なコミュニケーションのために

毎年、年度当初に、文部科学省が作成する啓発リーフレットの配布やトラブルを防ぐ学習を進めている。学校だけでなく、保護者と連携しながら引き続き取り組む。

元気・健康マイレージ事業の課題

令和7年度事業のリニューアルに向けた課題や取り組みは。

高齢福祉課に試験的に1台導入した。活用状況や他自治体の設置状況、既存の対話システムの利用状況等を踏まえ、導入について検討していく。

子どもたちの
安全なSNS利用

学校におけるSNSによる犯罪を未然に防ぐための周知・啓発の状況は。



認知症の人に
寄り添う社会の構築
鈴木 美恵 議員



手話でデフリンピックを表現

認知症ケア技法として見る・話す・触れる・立つを四本柱とする「ユマニチュード」の普及を。市民向けの認知症講座や家族介護教室、小・中学生向けの認知症サポーター養成講座で、ユマニチュードの内容も紹介していく。

ヒアリングフレイル（聴覚機能の衰え）対策として、聴力チェックアプリの活用や耳トレの実施を。

聞こえの衰えに関心を持つきっかけや、聴力の低下を予防するため気軽に利用できるツールとしてその効果を研究し、必要に応じて活用していきたい。

東京2025デフリンピック支援

東京2025デフリンピック支援



市誕生20周年で
おいしい給食のアピール
加藤 恵一 議員



おいしいふじみ野給食

県では、8市1町の自治体で御墳印、御墳印帳を発行している。本市でも市内外の人に広く権現山古墳群をPRするために御墳印等の印刷、発行を検討していく。

移住・定住の促進を

移住支援制度や市内企業と連携して移住就職支援を行っている。

今後、人口減少が見込まれることから、まずは、シティブロモーションを実施し、市内外に効果的、戦略的に市の魅力を発信するとともに、市のブランド力を強化することで将来に向けて安定した定住人口の確保に努めていきたい。また、移住・定住に関する施策については、引き続き研究する。

市報や展示会を活用し、本市の取り組みや情報を発信していくことは、非常に効果があるものと考えており、関連する部署と連携し検討する。

実は古墳のまち
ふじみ野

古墳PR策として御墳印、御墳印帳を作成し



生活保護行政の改善
前田 広子 議員

生活保護受給者のうち本来権利がある年金を受け取れていない人がいる。年金請求申請を社会保険労務士に委託しては。

年金請求手続きについて専門的な知識や支援が必要な場合もあり課題となっている。年金請求の申請代行業務を社会保険労務士法人に委託している自治体もある。効果的、効果的な方策について年金調査支援業務の導入に向けて検討をしている。

生活保護受給者の住居を安定して確保するため、住宅扶助の代理納付を進めるべきでは。

住宅扶助費支給世帯の約3分の1が代理納付を利用している。令和6年7月から原則代理納付の適用が明示されたため、切り替えを進めていく。



市民の生命を守るために！

市職員の普通救命講習の受講促進

市民の体調の急変等で救急要請が必要な時、職員が適切な対応ができることが必要だ。普通救命講習の受講状況は。

毎年度研修を実施している。今後も全ての職員がAEDの操作を経験できるよう引き続き受講の推進を図っていく。



日陰を増やす取り組み
金濱 高顕 議員

異常な猛暑が毎年続き、生活環境が変化している。公園に日陰を増やす取り組みが必要ではないか。

日陰を増やす取り組みについて検討していきたいと考える。

自転車増やす取り組み

自転車の交通ルールが守られていない。市役所前歩車分離式信号交差点での危険性の認識は。

看板などで注意喚起を行っているが、大きな効果は表れていないと考える。

視覚的に効果が期待できる看板を設置できないか。

看板の内容の改善を検討していく。

歩行者用青信号の時間



バリアポップで安全に



育休退園の廃止を
民部 佳代 議員



保育園楽しかったよ

産後ケアを利用しやすく

産後、母体を回復し育児支援を受ける産後ケア事業。現在は2泊3日で8万円、1泊ごとに4万円の利用者の負担が生じる。もう少し手ごろな負担で利用できないか。

10月から新たな施設の利用に向け準備を進めている。新たな施設では1泊2日で2万1千円の利用者負担となる。

東台小の学校開放

グラウンドや体育館、音楽室など一般に開放しているが、来年度以降は。

学校施設の利活用が決定するまで引き続き利用できる。また、平日昼間も開放できるよう検討する。